最先端医療が生まれるクリニック

北青山Dクリニック

パソコンやスマートフォンを使っていると、手の甲に浮き出る血管が気になることがある。このハンドペインは、ピアニストなど手に注目が集まる仕事をする人にとって切実な悩みだという。そんな人たちが駆け込むのが、北青山Dクリニック。血管治療のスペシャリストが手掛けるレーザー治療が“クオリティー・オブ・ライフ”をサポートする。

Photo Satoru Seki　Text Mayumi Sakamoto

阿保義久
あぼ・よしひさ
北青山Dクリニック院長
1965年青森県生まれ。93年東京大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院第一外科、虎ノ門病院、三楽病院などを経て、2000年に北青山Dクリニックを開業。04年医療法人DAP設立。10年東京大学医学部腫瘍外科・血管外科非常勤講師。

ハイセンスなショップやカフェが並ぶ外苑西通りにある北青山Dクリニック。日帰り手術と予防医療としてのアンチエイジング医療をコンセプトに、血管治療が専門の阿保義久氏が2000年に開業した。

「病気にかからないという観点でアンチエイジング医療に注力してきました。スキルを生かした日帰り手術を主軸にしていますが、近年は体への負担が少なく、治療効果の高いレーザーを用いた下肢静脈瘤や椎間板ヘルニア、ハンドペインといった治療を多く手掛けています」

阿保院長は、東京大学医学部附属病院第一外科に勤務し、血管外科・腫瘍外科を専門に数多くの手術を手掛けてきた。クリニックでは精度の高い人間ドックから、レーザー治療、がん遺伝子治療といった診療項目を掲げる。特に、静脈のエイジングによって起こる、下肢静脈瘤の日帰り手術ではパイオニア的存在だ。

「下肢静脈瘤は、脚の静脈が太く浮き出たり、コブのように膨らんでいる状態を指します。外見的ストレスだけでなく、痛みが出ることもあり悩んでいる方も多いのですが、一般的な病院では入院期間が長くなるため躊躇する方が多いのです。当院では、麻酔や手術内容を工夫して日帰りの根治手術を行ってきましたが、血管内レーザーが認可されてからはレーザー治療による日帰り手術も提供しています。体への負担が少なく、ダウンタイムが短いという、メリットのある治療です」

美容面のアンチエイジングとして注目されるハンドペインも、レーザー治療で行う。「最初に依頼してきたのはピアニストの方でした。美しい曲を弾いているのに、手の血管がコンプレックスになって集中できないとのこと。これは本当に深い悩みだから、何とか治してもらえないかと駆け込んできたのです」

日本に症例はなかったが、下肢静脈瘤のように、レーザーで血管を収縮させることができると直感したという。アメリカの医療機関では症例もあり、安全性も確認できた。「初めての患者の方にはリスクを説明して理解していただいたうえで、トライアルケースとして施術を行いましたが、とても喜んでくださり、満足度の高い治療だと実感できました」と阿保院長。このハンドペインのように、ニーズから生まれる新しい治療は、クリニックが目指すところでもある。希望者に提供するというスタンスでやってきたが口コミで広がり、今では年間1800件以上の施術実績を誇る。

こうした最先端医療は臨床経験の豊富なドクターが必須だ。クリニックには、阿保院長はもちろん、東京大学と慶應義塾大学で医学を学び、附属病院や関連病院で経験を積んだ医師が集結する。

「新しい治療に関しては院内でとことん意見を交わし、慎重に取り組んでいます。クリニックは一つのチームであり、だからこそ最先端医療を追求できるのです」

阿保院長の言葉には、揺るぎない自負がある。

キレーション療法など点滴による治療は、ソファでくつろぎながら受けることができる。

内視鏡検査も実施。外来で治療可能な小さなポリープは、その場で切除する日帰り手術もある。

白を基調とした待合室。予約制なので混み合うことはなく、プライバシーも保たれる。

Nile's Nile 2014-10
P081 北青山Dクリニック
校正 9/12